

第4回

最上小国川流域環境保全協議会

1. 第3回協議会における 指導事項と対応案

第3回 最上小国川流域環境保全協議会

概 要

開催日時 平成21年5月26日(火)10:00～15:00

場 所 赤倉温泉わらべ唄の宿「湯の原」

指導事項と対応

分類	指導内容	対応案
調査・解析方法について	猛禽類調査は生息・繁殖している5種（クマタカ、ハチクマ、オオタカ、ハイタカ、サシバ）に絞って行うことを確認したい。	5種を調査対象として今後も調査を行う。
	藻類調査はアユの餌としての視点だけでなく、藻類の視点、急流部での日射量と生育の関係なども見た方がよい。	（⇒河川の規模・幅が小さいイメージでの発言で、現地視察の結果、必要は無いとコメントを個別に頂いた）
	藻類が最も繁殖する春先5月頃の定期調査があったほうがよい。	来年度の融雪終了直後（連休前後）に調査を行うことを検討する。
	猛禽類は平成20年度に巣立った幼鳥と平成21年の行動圏の内部解析をして欲しい。また平成22年度にまとめてほしい。	行動圏などについて解析を行う。ただし、H21年は確認例数が少ないため、過去7年の確認にもとづき、構造を解析する。
協議会工程について	第5回協議会の内容案として「既往検討結果の見直し」とあるが、ダムによる影響の把握方法や検討の方針が必要である。 また第5回以降も濁水モニタリングを継続し、環境影響を検討してほしい。	今年度の調査結果も踏まえて、今後の影響予測検討方針、検討結果、モニタリングについて協議会に報告し、指導を得るようにする。